

令和 4 年度（2022 年度）

宇部看護専門学校

学校自己点検・自己評価

評価対象期間 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

1. 学校自己点検・自己評価の目的

看護師等養成所として「教育水準の維持・向上」と「創意工夫のある教育の追究」を図るため学校自己点検・自己評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

- 5 (よく当てはまる)
- 4 (かなり当てはまる)
- 3 (だいたい当てはまる)
- 2 (あまり当てはまらない)
- 1 (当てはまらない)

3. 学校自己点検・自己評価の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程経営
- IV. 教授・学習・評価過程
- V. 経営・管理過程
- VI. 入学
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域貢献

I. 教育理念・教育目的 【評価点 3.7】

【総括】

准看護科は令和4年度から、看護科は令和5年度から新しいカリキュラムでの准看護師・看護師の教育を実施としている。関連する法律との整合性がありこれを遵守するものとなっており、社会的責任について明示している。両課程共にカリキュラム改正を機に見直し、教育理念・教育目的を明文化し、学則・学生便覧・学校案内・ホームページ等に掲載している。また、入学時オリエンテーションや行事等の機会をとらえて学生に周知している。新人教員の入職時には、教員が認知したうえで看護基礎教育に携われるよう学則・学生便覧・教育計画等を用いてオリエンテーションを実施している。学生の学びを支援するための学習環境では、新型コロナウイルス感染症に関して出校停止となってもリモートで授業に参加できるよう、また、基本的な感染対策がとれるよう物的環境を整えている。

【課題】

人的環境としては、教員の確保・定着が課題である。教育理念・教育目標の評価について卒業時の到達度を明確にして継続的に改善を目指した検討をしていくことが課題である。

Ⅱ. 教育目標 【評価点 3.7】

【総括】

教育目標は学生便覧・実習要綱に明文化している。また、その内容については、入学時オリエンテーションや実習オリエンテーションを通して学生へ説明している。教育理念・教育目的・教育目標の一貫性はある。目標の到達度については、終講試験や実習評価を教員会議等で共有し評価の公平性・平等性をできるだけ担保できるよう、また、評価結果を学習支援・実習指導に活かすよう努力している。令和4年度看護師国家試験の合格率は100%であった。卒業時の到達度については、卒業判定に関わる科目履修での評価を実施している。目標設定と継続教育との関連性については、専門職業人として自己研鑽し続ける態度や地域社会に貢献できる能力の育成を目指すことを明文化している。

【課題】

令和5年度に向け卒業時の到達目標について、学生自身が自律した学習者として、また教育活動にフィードバックすることが課題である。看護実践能力の到達状況については、現在看護技術経験表について検討中である。令和5年度の臨地実習で活用できるよう作成し評価していく。

Ⅲ. 教育課程経営 【評価点 3.3】

【総括】

教育課程の編成については、准看護科・看護科の教務主任が中心となり専任教員と共に編成し学校運営委員会で承認を得て運営している。運営委員会の組織については、細則・内規に規定されている。両課程共にカリキュラム改正があり、教育課程編成の考え方と具体的な構成を示したものが明文化され見直しを行っている。学則・学生便覧・実習要綱に単位履修の考え方・科目の配列及び単位認定・評価について明文化するとともに、学生に説明を行っている。実習要綱には、学生からケアを受ける対象者の権利の尊重・安全対策について明文化している。臨地実習については、実習施設ごとに実習施設連絡会議を行い実習指導者の意見を取り入れながら、毎年度実習要綱の見直しを行っている。教員の専門性を高める体制として教員の臨床経験を活かした担当科目や実習担当科目を設定している。教員の自己研鑽を保証するシステムとして、研修や学会への参加ができるよう時間・予算の確保を行っている。

【課題】

教員が互いに授業参観・授業評価をするといった教員の相互研鑽を保証するシステムを作り、教員が自らの教育力を高める取り組みが必要である。

Ⅳ. 教授・学習・評価過程 【評価点 4.2】

【総括】

授業計画（シラバス）は科目ごとに作成しており、ホームページ上で閲覧できるようになっている。講義に関しては2カ月以上前に前期・後期の時間割表及び実習計画表を作成し配布している。就業している学生がいるため、就業先に時間割表を送付し学生が学習に取り組みやすいよう協力を得ている。授業案や実習指導案については、各担当教

員が作成・実施している。検討すべき事案があれば教員会議で検討している。授業内容間の関連については、外部講師から情報を得ることや担当教員同士で情報共有を行い重複や整合性・発展性について検討している。

科目の単位修得や科目履修の要件については、入学時及び進級時に学生に周知している。外部講師を含めた授業評価アンケートを実施している。

【課題】

実施した授業評価アンケートの結果を踏まえて授業改善につなげるための取り組みを検討する必要がある。教員間での授業研究を通して評価を行い授業の工夫や改善にむけて取り組む必要がある。

V 経営・管理運営 【評価点 3.1】

【総括】

両科教務主任、運営マネージャーの連絡調整会議を定期的実施し、学生の状況や教職員の意見等、学校の状況について情報共有や課題抽出を行い、それらが設置者にタイムリーに伝わるように努めている。組織体制として、運営委員会、教務会議、教員会議、講師会議、実習調整会議を設け、本校の教育全般について教職員の共通理解を図り、学生の効果的な支援を行うために協議を重ねている。

また、学生支援については担任による定期的な個人面談、担当教員による評価面接のほかに「なんでも相談窓口」を設置し、様々な立場の者に相談できる体制を整えている。経済面の支援については、公的な奨学金制度等についての情報提供を行い、個別に相談に応じている。

【課題】

近年人事異動（入退職）が激しく、組織体制を生かしたスムーズな経営管理が十分できていないことが課題である。教職員組織体制や施設設備の整備計画等、今一度明確にしておく必要がある。

VI 入学 【評価点 3.7】

【総括】

入学者については、年度末に仮入学を入学直後にオリエンテーションを実施し、教育理念、教育目標、カリキュラム等について説明するとともに学校生活における心構えや準備物、就学支援金制度等について周知し、スムーズに学校生活スタートできるよう配慮している。また、早い時期に個人面談を行い、個々の状況を把握するよう努めている。

また、年々入学者数が減少している状況については、コロナ禍や社会情勢等様々な影響も考えられるが、受験者確保に向けて、高校訪問や進路ガイダンスへの参加、学校見学等積極的な取組を進めている。

【課題】

今後の社会情勢を見極め、地域に根差した看護学校として中・長期的な在り方について検討を進めていくことが必要である。

VII 卒業・就業・進学 【評価点 3.1】

【総括】

学生の就職については、医療機関等からの資料を掲示したり紹介したりするとともに、必要に応じて個別に学生に対応している。また、看護協会と連携して学生への就職ガイダンスを実施している。

准看護科の学生については、准看護師にとどまらず看護師資格取得を視野に進路指導を行なっている。

【課題】

就職後の卒業生の状況を把握し、在校生への教育活動に生かす取組までには至っていない。卒業生の就職状況等も分析しながら、医師会立の看護学校の設置目的を再確認し、地域に貢献できる看護師を養成していきたい。

VIII 地域貢献 【評価点 3.0】

【総括】

山口宇部空港がある地域の特色を生かして山口県、宇部市をはじめ関係機関と合同で実施する「山口宇部空港消防救難訓練」への参加や地域のボランティア団体が主催する「happy together」「はあ〜と of ふれんず」へ参加している。

【課題】

コロナ感染状況の関係で、今年度は規模を縮小したり中止になったりしたが、今後も積極的に参加していきたい。